

最終評価シート

最終評価（表紙）

佐賀市歴史的風致維持向上計画（平成24年3月5日認定） 最終評価（平成24年度～令和3年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進	3
II 伝統と歴史に対する市民啓発と個々の活動への支援	4
III 江戸期の町割を継承する道路や水路の保全と活用	5
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 佐賀市における外国人観光客数の増加	6
ii 住民主導のまちづくり活動や地域コミュニティ活動の活性化	7
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 長崎街道再整備事業	8
B 案内・説明看板及び誘導看板整備事業	9
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 城下町の形成とその維持から見える歴史的風致	10
2 長崎街道と菓子文化の継承から見える歴史的風致	11
3 佐賀藩の近代化産業と伝統産業の継承から見える歴史的風致	12
4 城下町の恵比須信仰から見える歴史的風致	13
5 堀文化の継承から見える歴史的風致	14
6 祭事の継承から見える歴史的風致	15
■ 庁内体制シート（様式6）	16
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	17
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	18

最終評価（統括シート）

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～R3年
① 佐賀市の歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	城下町の形成とその維持から見える歴史的風致	I, III	
2	長崎街道と菓子文化の継承から見える歴史的風致	I, III	
3	佐賀藩の近代化産業と伝統産業の継承から見える歴史的風致	II	
4	城下町の恵比須信仰から見える歴史的風致	II, III	
5	堀文化の継承から見える歴史的風致	II, III	
6	祭事の継承から見える歴史的風致	II	
② 歴史的風致の維持向上に関する佐賀市の方針			
	方針		
I	歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進		
II	伝統と歴史に対する市民啓発と個々の活動への支援		
III	江戸期の町割を継承する道路や水路の保全と活用		
③ 佐賀市における歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	佐賀市における外国人観光客数の増加		
ii	住民主導のまちづくり活動や地域コミュニティ活動の活性化		
④ 佐賀市の代表的な事業			
	取り組み		
A	長崎街道再整備事業		
B	案内・説明看板及び誘導看板整備事業		

最終評価（方針別シート）

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～R3年																														
方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進	今後の対応	継続展開																														
<p>① 課題と方針の概要</p> <p>【課題】点在する歴史的建造物は、居住者の減少等によって維持管理が行われず老朽化や滅失が進んでいる。また、歴史的な趣を損ねた改修も多く、まちなみの統一感が失われつつある。歴史的建造物が多く残る柳町では、イベント開催時期以外は訪れる観光客も少なく、十分な活用が図られていない。</p> <p>【方針】歴史的建造物の文化財指定等を進めるとともに改修等への支援を行い滅失を防ぐ。また歴史的建造物の積極的な保存・活用を行い、歴史的建造物を活かしたまちづくりに取り組む。</p>																																	
<p>② 事業・取り組みの進捗</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>推移</th> <th>計画への位置付け</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>旧久富家・森永家住宅取得保存修理事業</td> <td>建物取得改修、民間事業者による活用</td> <td>あり</td> <td>H24～27</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>佐賀市歴史民俗館保存修理事業</td> <td>佐賀市歴史民俗館5棟を保存修理</td> <td>あり</td> <td>H24～R3</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>大隈記念館改修事業</td> <td>内部・設備改修及び展示施設の更新</td> <td>あり</td> <td>H24～26</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>史跡「大隈重信旧宅」保存修理事業</td> <td>耐震補強及び葺草屋根葺き替え等修理</td> <td>あり</td> <td>H26～28</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>まちづくりファンド事業</td> <td>歴史的建造物への助成6件(H24～R2)</td> <td>あり</td> <td>H23～R3</td> </tr> </tbody> </table>					項目	推移	計画への位置付け	年度	1	旧久富家・森永家住宅取得保存修理事業	建物取得改修、民間事業者による活用	あり	H24～27	2	佐賀市歴史民俗館保存修理事業	佐賀市歴史民俗館5棟を保存修理	あり	H24～R3	3	大隈記念館改修事業	内部・設備改修及び展示施設の更新	あり	H24～26	4	史跡「大隈重信旧宅」保存修理事業	耐震補強及び葺草屋根葺き替え等修理	あり	H26～28	5	まちづくりファンド事業	歴史的建造物への助成6件(H24～R2)	あり	H23～R3
	項目	推移	計画への位置付け	年度																													
1	旧久富家・森永家住宅取得保存修理事業	建物取得改修、民間事業者による活用	あり	H24～27																													
2	佐賀市歴史民俗館保存修理事業	佐賀市歴史民俗館5棟を保存修理	あり	H24～R3																													
3	大隈記念館改修事業	内部・設備改修及び展示施設の更新	あり	H24～26																													
4	史跡「大隈重信旧宅」保存修理事業	耐震補強及び葺草屋根葺き替え等修理	あり	H26～28																													
5	まちづくりファンド事業	歴史的建造物への助成6件(H24～R2)	あり	H23～R3																													
<p>③ 課題解決・方針達成の経緯と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 旧久富家・旧森永家住宅取得保存修理事業 柳町景観形成地区に残る歴史的建物等を市が取得し、外観は往時の姿に復原したうえで、公募した民間事業者の活用方法に合わせて内部の改修を行い、カフェや写真館、紅茶専門店などとして活用を図った。市による建物等の保存改修と民間による活用という新たな取組が注目され、歴史的建造物を活かしたまちづくりの促進に繋がった。 ● 佐賀市歴史民俗館保存修理事業 佐賀市歴史民俗館を構成する建物5棟(市重要文化財)について改修工事を実施し、歴史的建造物の保全を図った。 ● まちづくりファンド事業 民間所有の歴史的建造物について、改修費用等の一部助成を行うことにより建物の保存を支援した。これにより、民間による歴史的建造物を活用した交流・にぎわいづくりに繋がった。 																																	
<p>④ 自己評価</p> <p>柳町景観形成地区において、歴史的建造物の保存改修等を積極的に行い、歴史的景観の維持向上を図った。また、外観は歴史的な趣を残しつつ、内部は民間事業者による活用を促すという新たな取組を行ったことで、イベント開催期以外の観光客数も増加し、市の歴史まちづくりの拠点として充実を図ることができた。</p>																																	
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>長崎街道・柳町景観形成地区では、歴史的なまちなみを保全する取組を当該地区の住民と共に進め、民間活力を積極的に取り入れた活用方法の検討を行う。また、民間団体等とも協力し、現存する歴史的建造物の保存や活用に関する地域住民の意識向上に取り組む。</p>																																	



改修後の旧久富家(外観)



改修後の旧森永家(内部)

最終評価（方針別シート）

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～R3年																														
方針	Ⅱ 伝統と歴史に対する市民啓発と個々の活動への支援	今後の対応	継続展開																														
<p>① 課題と方針の概要</p> <p>【課題】高齢化や人口減少に伴い、地域の祭礼などが中止となったり、お宮等の維持が困難になるなど、地域固有の歴史文化が失われるおそれがある。また、無形の伝統文化や伝統技術の後継者が不足しており、文化財の保護と活用に対する市民への意識啓発が課題となっている。</p> <p>【方針】伝統文化について実態を的確に把握するとともに、継承活動などへの支援を行う。条件が整ったものについては文化財としての指定を進める。また、無形文化財を含め、文化財について市民の理解が進むよう市民啓発を引き続き行う。</p>																																	
<p>② 事業・取り組みの進捗</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>推移</th> <th>計画への位置付け</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>佐賀市文化遺産活用事業</td> <td>佐賀城下探訪会参加者延べ2,814人(H24～R2)</td> <td>あり</td> <td>H23～R3</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>徴古館を活かしたまちづくり推進事業</td> <td>企画展入館者延べ164,108人(H24～R2)</td> <td>あり</td> <td>H21～R3</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>地域文化保存・継承支援事業</td> <td>修繕等及び活動支援61件(H24～R2)</td> <td>あり</td> <td>H21～R3</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>指定文化財要覧作成事業</td> <td>要覧の概要をデータベース化</td> <td>あり</td> <td>H23～26</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>佐賀市無形民俗文化財継承支援補助金</td> <td>10団体に継続補助(H29～30は11、R元以降13)</td> <td>あり</td> <td>H21～R3</td> </tr> </tbody> </table>					項目	推移	計画への位置付け	年度	1	佐賀市文化遺産活用事業	佐賀城下探訪会参加者延べ2,814人(H24～R2)	あり	H23～R3	2	徴古館を活かしたまちづくり推進事業	企画展入館者延べ164,108人(H24～R2)	あり	H21～R3	3	地域文化保存・継承支援事業	修繕等及び活動支援61件(H24～R2)	あり	H21～R3	4	指定文化財要覧作成事業	要覧の概要をデータベース化	あり	H23～26	5	佐賀市無形民俗文化財継承支援補助金	10団体に継続補助(H29～30は11、R元以降13)	あり	H21～R3
	項目	推移	計画への位置付け	年度																													
1	佐賀市文化遺産活用事業	佐賀城下探訪会参加者延べ2,814人(H24～R2)	あり	H23～R3																													
2	徴古館を活かしたまちづくり推進事業	企画展入館者延べ164,108人(H24～R2)	あり	H21～R3																													
3	地域文化保存・継承支援事業	修繕等及び活動支援61件(H24～R2)	あり	H21～R3																													
4	指定文化財要覧作成事業	要覧の概要をデータベース化	あり	H23～26																													
5	佐賀市無形民俗文化財継承支援補助金	10団体に継続補助(H29～30は11、R元以降13)	あり	H21～R3																													
<p>③ 課題解決・方針達成の経緯と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 佐賀市文化遺産活用事業 市民団体「さが城下まちづくり実行委員会」が主体となり、佐賀城下に残る文化遺産を活かした探訪会や伝統文化体験教室等を実施することにより、市民への意識啓発を図った。 ● 徴古館を活かしたまちづくり推進事業 (公財)鍋島報効会が所有する鍋島家伝来の歴史資産を活用し、年間を通じて企画展等を実施した。また、江戸期の古地図と現代の都市計画図を重ね合わせた地図(まち歩きマップ)を作成・配布した。これらの取り組みにより、本市の歴史文化に対する市民や観光客の理解増進を図った。 ● 佐賀市無形民俗文化財継承支援補助金 加勢鳥保存会(見島のカセドリ)や「白髭神社の田楽」保存会(白髭神社の田楽)といった国・県・市指定の無形民俗文化財の保存団体に対し、行事の運営や担い手育成などに係る経費を補助することにより、地域での保存・継承の意識を高め、次世代の担い手育成の取り組みに繋がった。 																																	
<p>④ 自己評価</p> <p>各団体の伝統文化等の継承活動に対し補助・支援を行うことで、地域固有の伝統文化や歴史資源の維持・継承に寄与している。また、歴史資産を活用した企画展等の実施、文化遺産等を巡る探訪会の開催、まち歩きマップの配布などを通じて、本市の歴史文化に対する市民意識の向上、理解増進を図った。</p>																																	
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>引き続き、地域に残る伝統文化や歴史資源の維持・保存及び継承に対する支援を行うとともに、無形文化財を含む本市の文化財、歴史文化に対する市民意識の醸成を図るため、積極的な啓発に取り組んでいく。</p>																																	



佐賀城下探訪会 R2.10



まち歩きマップ(城下西部版)

最終評価（方針別シート）

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～R3年
方針	Ⅲ 江戸期の町割を継承する道路や水路の保全と活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】佐賀城下に点在する歴史的建造物や展示施設を快適に回遊できる歩行者・自転車ネットワークが形成されておらず、長崎街道の道筋もわかりにくい箇所があり、休憩場所も少ない。重要な歴史的風致を形成する佐賀城の内堀は、東堀が埋め立てられ、江戸期の町割を伝える堀や石橋も見えないところが多く、城下町としての風情が感じられにくくなっている。

【方針】城下町を快適に周遊できるルートの整備（休息の場としての緑地整備、長崎街道の明確化、景観に配慮した防護柵改修、統一感のある案内板設置等）とともに、佐賀城の東堀復元や石橋等の保全を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	佐賀城公園整備事業	東堀の一部を復元	あり	S43～R3
2	長崎街道再整備事業	延長3,202mをカラー舗装(H26～R3)	あり	H26～R3
3	周遊ルート環境整備事業	防護柵改修13箇所(H25～R2)	あり	H25～R3
4	案内・説明看板及び誘導看板整備事業	案内サイン98箇所設置(H27～R2)	あり	H25～R3
5	柳町思案橋広場整備事業	荷揚げ場遺構を活かした広場整備	あり	R2～R3

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

● 長崎街道再整備事業

平成26年度に整備計画を策定、舗装の高質化を順次実施している。曲がり角が多い長崎街道の道筋をカラー舗装で明確化することで、まち歩きがしやすい環境整備を行った。

● 周遊ルート環境整備事業

歩行者や自転車が快適に周遊できるよう、景観に配慮した防護柵等の整備を行い、周辺環境の改善を図った。

● 案内・説明看板及び誘導看板整備事業

歴史資産等の案内看板等に統一性がなく老朽化しているものも多いため、まちなみに配慮した統一感のあるデザインとした。また、板面の地図には江戸時代の佐賀城下絵図を用い、江戸期の町割が継承されている佐賀市のまちなみを示すことで、佐賀城下の歴史的風致への興味関心を高めた。



↓ 長崎街道再整備事業



④ 自己評価

佐賀城下を東西に通る長崎街道や周辺の環境整備によって、歴史資産が多く残る長崎街道沿いの景観の向上を図り、まちなみの魅力が増した。また、案内看板等の整備により、来訪者がまち歩きをしやすい環境の充実を図るとともに、江戸期の町割が残る佐賀城下の歴史への関心を高めることに繋がった。

⑤ 今後の対応

明治維新150年を機に、城内や長崎街道沿いの柳町地区を訪れる観光客も増加したことから、より快適な周遊ルートが構築できるよう引き続き環境整備に取り組む。また、江戸期の町割が継承されていることを広く周知し、その重要性を啓発することにより、保全に対する住民意識の向上を図る。

最終評価（波及効果別シート）

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～R3年																				
効果	i 佐賀市における外国人観光客数の増加																						
① 効果の概要 外国人観光客（市内延べ宿泊者数）が約10倍に増加																							
② 関連する取り組み・計画																							
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																				
1	第2次佐賀市総合計画	あり	H27～R6																				
2	佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略	あり	H27～R6																				
多様化する観光ニーズを踏まえ、佐賀市ならではの観光の魅力を高め、国内外からの誘客を図るため、第2次総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略において「地域資源を活かした観光地域づくり」を掲げ、観光客増に取り組んでいる。																							
③ 効果発現の経緯と成果																							
<p>平成27年3月に策定した「第2次佐賀市総合計画」ではまちづくり推進プロジェクトの一つに「賑わいと風格のあるまちづくり」を掲げ、柳町地区の歴史的建造物の保存・活用や周遊ルート環境整備等を進めてきた。</p> <p>また、平成27年10月に策定した「佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略」においても、地域資源を活かした魅力的な観光地域づくりの一環として、歴史的建造物・景観を活かした観光客誘致に取り組んできたところである。</p> <p>佐賀市への外国人観光客数は、平成24年度以降増加し、特に平成27年度以降は大幅な伸びとなっている。歴史的建造物の保存・活用整備を行った柳町地区においても多数の外国人観光客が訪れており、歴史資産を活用した景観保全の成果は顕著である。</p> <p>外国人観光客の受入環境整備として、ホームページや観光パンフレットの多言語化、インターネット等を活用した情報発信、海外でのプロモーション活動等を実施し、佐賀の認知度向上に努めた。</p>		<p>外国人観光客数(延べ宿泊者)</p> <table border="1"> <caption>外国人観光客数(延べ宿泊者) (千人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>7</td></tr> <tr><td>H25</td><td>13</td></tr> <tr><td>H26</td><td>19</td></tr> <tr><td>H27</td><td>50</td></tr> <tr><td>H28</td><td>69</td></tr> <tr><td>H29</td><td>71</td></tr> <tr><td>H30</td><td>80</td></tr> <tr><td>R1</td><td>74</td></tr> <tr><td>R2</td><td>11</td></tr> </tbody> </table>		年度	人数	H24	7	H25	13	H26	19	H27	50	H28	69	H29	71	H30	80	R1	74	R2	11
年度	人数																						
H24	7																						
H25	13																						
H26	19																						
H27	50																						
H28	69																						
H29	71																						
H30	80																						
R1	74																						
R2	11																						
④ 自己評価		<p>多言語観光パンフレット</p>																					
<p>国内のインバウンド需要が高まる中、本市でも観光プロモーションや受入環境の充実を図ることで、アジアを中心とする外国人観光客が大幅に増加した。歴史的建造物や景観を活かしたまちづくりも、外国人観光客誘致に大きな役割を果たしていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、R2年度以降急激な落ち込みを見せている。</p>																							
⑤ 今後の対応																							
<p>新型コロナウイルス感染症の影響で、現在、外国人観光客数は大幅に減少しているが、コロナ終息後は、九州佐賀国際空港就航路線(上海、西安、ソウル、台北)の再開や、九州新幹線西九州ルート(令和4年秋予定)などにより、外国人観光客数は持ち直していくものと見込まれる。多様な観光ニーズに対応するため、観光担当部署と連携を図り、本市の歴史文化や歴史的建造物等について情報発信を行うなど、引き続き外国人観光客受入れ環境の充実を図る。</p>																							

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～R3年																
効果	ii 住民主導によるまちづくり活動や地域コミュニティの活性化																		
<p>① 効果の概要</p> <p>地域住民及びテナント活用者等による主体的なまちづくり活動の活性化</p>																			
<p>② 関連する取り組み・計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第2次佐賀市総合計画</td> <td>あり</td> <td>H27～R6</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>佐賀市街なか再生計画</td> <td>あり</td> <td>H23～</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	第2次佐賀市総合計画	あり	H27～R6	2	佐賀市街なか再生計画	あり	H23～				
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																
1	第2次佐賀市総合計画	あり	H27～R6																
2	佐賀市街なか再生計画	あり	H23～																
<p>歴史的資産等を活かしたまちづくりを進める中で、地元自治会等による環境美化活動や地域の情報発信活動など、地域住民による主体的な活動が活性化した。また、柳町地区においては、市が整備する歴史的建造物のテナント入居者による組織や校区まちづくり振興部会が主体となり、住民主導によるまちづくりが積極的に行われるようになった。</p>																			
<p>③ 効果発現の経緯と成果</p> <p>柳町地区に整備した旧森永家・旧久富家のテナント入居者による「柳町のれん会」が組織され、定例会議やイベント等を実施するなど、民間活用者による主体的なまちづくりが発現した。</p> <p>また、周辺の施設関係者による「循誘まちなか振興会」では、地域の歴史や施設を掲載したまち歩きのガイドブックを作成するなど、地域住民等が主体となって積極的なまちづくり活動が展開されるようになった。</p> <p>石垣遺構を活かした構口公園整備事業では、ボランティア団体等が整備された公園周辺の環境美化活動や緑化活動を新たに始めており、市が行う整備事業と民間による活動とが一体となって地域環境整備が促進されるようになるなど、地域住民によるまちづくりの意識が向上した。</p> <p>平成27年に世界遺産の構成資産として登録された三重津海軍所跡の地元では、地域住民により組織されたまちづくり協議会の「歴史・伝統部会」会員を中心に、史跡の環境美化活動や周辺の歴史探訪ウォーキング等が実施され、地域の歴史や文化に対する住民意識の高揚に寄与している。</p>																			
<p>④ 自己評価</p> <p>市が歴史的建造物等の保存改修を行うにあたっては、建物の活用者や地域住民の理解と協力を得ながら整備を進めてきた。これにより、建物活用者や地域住民が主体となってまちづくり活動を行おうとする意欲が高まり、住民主導でのまちづくりや地域コミュニティの活性化に繋がっている。</p>		 <p>「佐賀 柳町ぶらぶらマップ」 循誘まちなか振興会作成</p>  <p>地域住民による「三重津海軍所跡」の清掃活動</p>																	
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>歴史まちづくりを進めるには、行政だけでは限界があり、地域や民間による主体的な取り組みが必要である。地域や民間などの自主的な活動を促進するため、情報提供や普及啓発等を行い、主体的な取り組みへの支援を積極的に行っていく。</p>																			

最終評価（代表的な事業の質シート）

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～R3年
取り組み	A 長崎街道再整備事業	種別	歴史的風致維持 向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>佐賀城下町を東西に通る長崎街道は、城内に近づくにつれて折れ曲がり、道筋がわかりにくい構造となっている。街道沿いには、歴史的建造物や赤石護岸、棚路なども多く残り、散策する来訪者も多いため、長崎街道の道筋を明確にする舗装の高質化（カラー舗装）を順次実施してきた。また、側溝蓋には「駕籠かき」のイラストを描くなど、長崎街道であるということが来訪者に一目で分かるような整備を行った。</p> <p>【整備状況】 H26測量設計・整備計画策定、H27整備延長L=750m、H28整備延長L=455m、H29整備延長L=600m、H30整備延長L=420m、R1整備延長L=562m、R2整備延長L=310m、R3整備延長L=105m ※総整備延長L=3,202m（整備除外区間を除いた整備率 92.0%）</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【整備前】</p> </div> <div style="font-size: 2em;">➔</div> <div style="text-align: center;">  <p>【カラー舗装整備後】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>側溝蓋イラスト</p> </div> </div>			
<p>② 自己評価</p> <p>長崎街道は、一部を除いて道筋や道幅が江戸時代のままの姿で継承されているが、曲がり角が多く道筋がわかりにくいというえ、新たな都市計画道路や開発で分断され、長崎街道と他の道路との区別がつきにくくなっていた。</p> <p>本事業による整備完了区間においては、他の生活道路との差別化が図られ長崎街道の道案内となっている。また、遮熱性舗装を採用したことにより、道路からの反射熱が抑えられ、来訪者による快適な長崎街道散策に寄与している。</p>			
外部有識者名	藤口 悦子氏（佐賀市文化財保護審議会 会長）		
外部評価実施日	令和3年12月6日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>佐賀市の歴史的風致の向上に効果的な事業と評価できる。江戸時代の佐賀城下は大きく改変されることなく道路や堀・川、武家地や町人地は今に生きており、長崎から小倉に至る長崎街道も城下の町人地を東西に走り、一部を除き当時のままの姿で現在も道路として利用されている。</p> <p>この街道の整備は昭和50年代に一度着手され、道標や側溝の蓋で街道の道筋を認識させた。今回の事業はカラー舗装による街道の顕在化である。同一仕様にも関わらず、その仕上がりにはばらつきがあり、カラー舗装の耐用年数も短いように思われる。側溝も以前とは異なり、「駕籠かき」のイラストの入った側溝蓋は高価な鋳物に変わったが、すぐに錆が発生している。当初の側溝蓋のブロックは、設置して40年以上経過した現在も健在であることから、側溝の仕様が変わったとはいえ、これを活かしていないのは残念である。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>カラー舗装については、特記仕様書で詳細を定め、試験施工を実施するなど配慮してきたが、施工場所の環境の違いや経年劣化の差などによる路面の色の違いが見られる箇所もあった。錆の発生した側溝蓋については、塗装膜を厚くして対応を行った。今後、未整備区間の整備等を実施する際には、これまでに得た知見を活かした施工をすることで、引き続き市民・来訪者の周遊環境向上に寄与していく。</p>			

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H25～R3年
取り組み	B 案内・説明看板及び誘導看板整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>まちなみに配慮した統一感のあるデザインにより、佐賀城下に点在する指定文化財や史跡等の歴史的資産に関する各種サインの新設、改修を実施した。</p> <p>【サインの種類】「案内サイン」: 施設等の全体像や位置関係等を案内 「説明サイン」: 施設等の機能や歴史などを紹介 「誘導サイン」: 施設等の方向を指示し、目的の場所まで誘導</p> <p>【整備概要】 H26: 整備基準、整備計画策定、H27: 19基、H28: 17基、H29: 21基、H30: 16基、R1: 14基、R2: 11基（総整備基数: 98基）</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>案内看板</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>説明看板(中)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>説明看板(小)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>誘導看板</p> </div> </div>			
<p>② 自己評価</p> <p>老朽化や、機能性・説明内容の不足等といった既存サインの課題・問題点を解消することができた。また、具体的な設置場所や盤面の内容については、佐賀城下の歴史まちづくりに関する活動を行っている市民組織の協力を得て住民や来訪者の視点から検討を重ねたことで、より効果的な整備を行うことができた。本事業により、市民や来訪者の利便性向上と、佐賀城下及び長崎街道沿いの歴史的資産に関する理解促進が図られ、本市の歴史的風致の向上に寄与した。</p>			
外部有識者名		藤口 悦子氏(佐賀市文化財保護審議会 会長)	
外部評価実施日		令和3年12月6日	
<p>③ 有識者コメント</p> <p>佐賀は「何もなか」と言われて久しい。佐賀の歴史や文化を学ぶ機会を放棄してきたのではないと思われる程である。道路標識は公的な施設の案内のみであった。佐賀には観光地という認識がなく、その努力を怠っていたといえよう。</p> <p>今回の事業では、「佐賀城下絵図」を読み解きながら基本資料にもあたり、新規内容の案内・説明看板が各所に設置された。道行く人々（観光客や地元住民）が足を止め見入る姿には、事業の効果は十分にあったと認識できる。</p> <p>しかし、設置すべき箇所はまだまだあり、設置された説明も板面の都合で十分とは言えない。今後両面からの継続した事業が望まれる。</p> <p>また、市単独で実施予定であった合併前の旧町村の既存の説明板は老朽化がひどく、内容も精度にばらつきがあるにもかかわらず手付かずであった。この点は早急の実施すべきであろう。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>今後は、既存看板の適切な維持管理を行うとともに、新たに設置すべき看板の検討及び既存看板の更新について関係部署等と協議を行っていく。あわせて、既存看板の位置や掲載内容をデータ化し、板面の都合で掲載できなかった情報を含めてパソコン等で閲覧できるような仕組みの構築を検討していく。</p>			

最終評価（歴史的風致別シート）

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～R3年
歴史的風致	1 城下町の形成とその維持から見える歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進 Ⅲ 江戸期の町割を継承する道路や水路の保全と活用		

① 歴史的風致の概要

佐賀の城下町は江戸初期に完成しているが、城を囲む四方の堀の一部や水路と道路で区割りされた町割りが、石橋や棚路などと共にほぼそのままの位置と形状で現在まで継承されており、そこで行われる川干や消防などの活動も地域住民により今日まで引き継がれている。

江戸時代、武家地は「小路」と呼ばれる街区を基本としていたが、町地を含めその多くが地名や自治会名などとして現在も使用されている。また、城下町北東部の柳町地区には、江戸後期から明治、大正期にかけて建築された歴史的建造物群が残り、歴史的なまちなみを形成している。

② 維持向上の経緯と成果

● 佐賀城お堀の復元整備

佐賀城を囲む四方の堀のうち、明治以降その大部分が埋め立てられていた東堀の一部復元を佐賀城公園整備事業において実施した。このことにより佐賀城内の範囲がより明確となり、歴史的景観の向上が図られた。



佐賀城東堀石積復元(R2)

● 江戸期を継承する町割りの保全活用等

江戸期の古地図と現代の都市計画図を重ね合わせた地図(まち歩きマップ)を作成・配布し、佐賀城下の町割りを構成する道路や水路の多くが江戸期から継承されていることを広く周知した。また、古地図に残る武家地(小路)や町人地を解説する案内板を整備し、佐賀城下の歴史的景観への関心を高めた。



案内看板の整備(R1)

● 歴史的建造物の保全整備等

城下町北東部に位置する柳町地区に集積する歴史的建造物(旧古賀銀行、旧久富家、旧森永家など)の修復保全整備及び一般公開を行った。建物外観が往時の姿に復元されたことにより、長崎街道を含めた歴史的まちなみの形成が一層図られた。

また、旧久富家、旧森永家では、喫茶、ギャラリー、フォトスタジオなどが展開されており、まちの賑わいづくりに貢献する施設となっている。



旧森永家の保全整備(H27.2)

③ 自己評価

東堀の復元により、不明確だった城内の範囲が目に見える形で分かるようになった。また、案内板や歴史的建造物の整備・活用が進んだことで、散策などを目的に城下町を訪れる観光客の利便性が高まった。

④ 今後の対応

東堀については今後も復元工事を進める。また案内板や歴史的建造物の修復保全についても、第2期計画において計画的に実施していく。あわせて、市民団体が行う探訪会やシンポジウム開催といったソフト事業の展開、民間による歴史的建造物保全・活用の検討などを進め、城下町における歴史的風致の維持向上に努めていく。

最終評価（歴史的風致別シート）

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～R3年
歴史的風致	2 長崎街道と菓子文化の継承から見える歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進 III 江戸期の町割を継承する道路や水路の保全と活用		

① 歴史的風致の概要

佐賀の城下町には九州随一の幹線道路である長崎街道が東西に横断していたが、その道筋や道幅はほぼ当時のまま残っている。この街道は江戸時代、海外に門戸を開いていた長崎へと通じており、南蛮の品々が南蛮文化と共に往来していた。そのため佐賀藩は、当時貴重であった砂糖を比較的容易に手に入れることが可能であり、砂糖を使った南蛮菓子文化が長崎街道沿いを中心に花開いた（長崎街道は近年「シュガーロード」とも呼ばれている）。佐賀の職人が改良を重ね育ててきた「丸ぼうろ」は、今でも市内の多くの店で焼かれており、市民の日常の中に息づいている。

② 維持向上の経緯と成果

● 長崎街道及び周辺の整備

城下町を東西に横断する長崎街道（全長4.7km）の道筋を明確化するため、カラー舗装整備を順次行った。また、長崎街道の東の城下入口である牛嶋構口に架かる橋の場所が発掘調査により特定され、橋の土台部分の石垣遺構を活かした公園整備を行った。これらにより、長崎街道を散策する来訪者の利便性向上に寄与した。



長崎街道【整備前】



長崎街道【整備後】

● 菓子文化の継承

長崎街道沿いに花開いた菓子文化は現在まで引き継がれ、その代表的なお菓子である「丸ぼうろ」は今も贈答品などとして広く流通している。「佐賀城下ひなまつり」などのイベント時に観光客の前で実際に「丸ぼうろ」を焼いて販売する実演販売の取り組みや、複数の店舗の商品を詰め合わせた「食べ比べセット」の販売なども行われており、市民に愛される地元の伝統的銘菓となっている。また、長崎街道沿いの3県8市の自治体で設立している「シュガーロード連絡協議会」では、シュガーロードに関する情報交換や地域の菓子店と連携した菓子文化のPR等を実施しており、菓子文化の継承の取組に繋がっている。この協議会が申請していた長崎街道「シュガーロード」に関するストーリーは、令和2年6月19日に、「砂糖文化を広めた長崎街道 ～シュガーロード～」として日本遺産に認定された。



牛嶋構口公園



丸ぼうろの実演販売

③ 自己評価

長崎街道のカラー舗装整備やその沿線におけるスポット的な公園、休憩所などの整備は徐々に進捗している。

また、長崎街道周辺自治体と連携し、シュガーロードに関する情報交換やPR、スタンプラリーなどのイベントを実施することにより、長崎街道で繋がる菓子文化の取組が広がった。

④ 今後の対応

長崎と小倉を結ぶ長崎街道を広く周知するため、2期計画においても引き続き長崎街道及び周辺環境の整備を行っていく。また、長崎街道沿いに伝わる菓子文化の継承につなげるため、日本遺産認定を契機として「長崎街道＝シュガーロード」の更なる周知を図り、シュガーロード連絡協議会加盟の周辺自治体や民間事業者と連携した取組を推進していく。

最終評価（歴史的風致別シート）

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～R3年
歴史的風致	3 佐賀藩の近代化産業と伝統産業の継承から見える歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ 伝統と歴史に対する市民啓発と個々の活動への支援		

① 歴史的風致の概要

幕末、佐賀藩は西洋の科学技術の習得に力を入れていた。築地、多布施の2箇所に反射炉を設置し鉄製大砲の鑄造に取り組んだほか、南部の早津江川沿いには佐賀藩洋式海軍の拠点として三重津海軍所を設立し、訓練や船の修理、日本初の実用蒸気船「凌風丸」の建造などを行った。また、理化学研究所「精煉方」を設置し、大砲、蒸気機関や薬品などの研究開発を行っていたが、実験に必要なビーカーやフラスコなどのガラス製品は、海外の文献から独自に学び取った技術で製作していた。ガラス事業は経営体制を変えながら現在まで引き継がれ、宙吹き技法「ジャッパン吹き」による佐賀の伝統工芸品「肥前びーどろ」などの製造・販売が行われている。

② 維持向上の経緯と成果

● 精煉方跡地の取得

精煉方跡地約1万5,500平方メートルは民間所有となっていたが、このうち6,500平方メートルを平成29年度及び30年度に市が所有者から購入し、発掘調査等を実施した。



レンガ組み遺構(精煉方跡)

● 三重津海軍所跡の世界文化遺産登録

三重津海軍所は、佐賀藩洋式海軍の拠点施設であり、修船・造船の機能も有していた。遺構として発見されたドライドックは土と木を組み合わせた日本の伝統的な土木技術を用いて造られており評価が高い。平成27年7月に「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として世界文化遺産に登録されたことを機に、シンポジウムや各種講座等を開催するとともに、令和3年にはガイダンス施設のリニューアルを実施、佐賀藩の技術や歴史に対する市民啓発の充実を図った。



三重津海軍所跡

● ガラス事業の継承

精煉方から経営体制を変えながら受け継がれてきたガラス工芸技術は、市の重要無形文化財にも指定され、伝統的な製法によって華やかな色使いのガラス製品が生産されている。伝統を守りながらも若手職人の育成や新商品の開発などが行われており、市でも催事出店時の支援や設備等整備補助などにより伝統産業を守り継続する取り組みへの支援を行った。



肥前びーどろ

③ 自己評価

精煉方跡地を市が取得したことにより、さらなる発掘調査等が可能となった。世界遺産の構成資産となった三重津海軍所跡は来訪者が増加したが、代表的な遺構である「ドライドック」は地下遺構であるため、令和3年秋に本格的なガイダンス施設が完成し、その価値を来訪者へ伝えていくことが可能となった。

④ 今後の対応

精煉方跡や三重津海軍所跡については、発掘調査等の結果をみながら、市民が郷土の歴史文化に誇りを感じることができる佐賀藩の近代化産業遺産群として、整備活用の在り方等を検討する。

伝統産業の継承については、民間事業者の取組みに対する支援を引き続き行う。

最終評価（歴史的風致別シート）

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～R3年
歴史的風致	4 城下町の恵比須信仰から見える歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	II 伝統と歴史に対する市民啓発と個々の活動への支援 III 江戸期の町割を継承する道路や水路の保全と活用		

① 歴史的風致の概要

佐賀城下では至るところで恵比須像を見ることができる。他では例を見ないほどの恵比須像が家の軒先や辻々に祀られている。恵比須像が多い理由には諸説あるが、長崎街道沿いを中心に商売を営む人が多かったことから、商売繁盛を祈願し造立されたというのが主な理由と考えられている。市民の恵比須信仰は地域に深く根付いており、新たな恵比須像の造立や恵比須祭りなどの祭事が各地域で今日まで引き継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

● 恵比須まつり、恵比須大祭の開催

各地域で恵比須まつりが行われているほか、県下最古の木造建築である「楼門」がある与賀神社では、毎年1月に「十日恵比須大祭」が行われており、商売繁盛や家内安全を願う人々で大きな賑わいを見せている。



出前講座(小学校での総合学習)

● 恵比須を活かしたまちづくり活動

市民活動団体「恵比須DEまちづくりネットワーク」により、市内に800体以上あるとされる恵比須を活かしたまちづくり活動が展開されている。平成25年度に開設された市内恵比須巡りの拠点「開運さが恵比須ステーション」では、市内の恵比須像88体を巡るスタンプラリー(さが恵比須八十八ヶ所巡り)、小学校へのお出前講座、恵比須さんが鎮座する15社を巡る恵比須御朱印巡りなど様々なイベントや企画などが実施されており、多くの市民や来訪者が参加している。これらの活動により“佐賀は恵比須のまち”との認識が多くの市民の間で広がっている。



さが恵比須八十八ヶ所巡り

● 新たな恵比須像の造立

古くから残る恵比須像に加え、近年でも「幸運の恵比須」(平成25年)、「葉がくれ恵比須」(平成26年)、「寶富恵比須」(平成27年)や、地域住民が寄付を募って設置した「コロナ恵比須」(令和3年)など、新たな恵比須像が造立されている。



コロナ恵比須

③ 自己評価

恵比須を活かしたまちづくり活動は、年々盛んに行われるようになってきた。恵比須巡りや出前講座のほか、最近では恵比須を用いたグッズ販売なども行われており、市民の認知度も高まっている。また、新たに恵比須像が造立されるなど、市民の恵比須への思いの深さが感じられる。

④ 今後の対応

市民活動団体などと連携を図りながら、観光担当部署等を通じて市民や来訪者へPRを行い、引き続き恵比須を活かしたまちづくりの取組を推進していく。

最終評価（歴史的風致別シート）

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～R3年
歴史的風致	5 堀文化の継承から見える歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	II 伝統と歴史に対する市民啓発と個々の活動への支援 III 江戸期の町割を継承する道路や水路の保全と活用		

① 歴史的風致の概要

佐賀平野は背後に高い山地を有しない低平地であるため深刻な水不足の問題を抱えており、それを解消するために用水・排水・貯留機能を併せ持つ堀（クリーク）が網の目のように張り巡らされている。堀は水の恩恵を与える半面、水害の危険性を併せ持つ施設であるため、これまで幾度となく大きな水害に見舞われてきた。このような背景の中で、堀の機能保全を目的とした活動である「ごみくい」や子どもたちを水難事故から守ることを祈願する「ひゃーらんさんまつり」などの行事が各地で行われており、現在まで継承されている。

② 維持向上の経緯と成果

● ごみくい活動

クリークの底にたまった泥土を揚げて水路の機能保全を図り、すくった泥については乾かして農地の肥料として使うといった佐賀の伝統農法である「ごみくい」活動が、地域や市民活動団体、学生らの手により実施されており、佐賀の伝統的な資源循環型農法を伝え体験する取組が行われている（外来種除去など環境美化活動と併せて実施されているものが多い）。



ごみくい活動

● ひゃーらんさんまつり

毎年4月下旬から5月はじめにかけて堀の水が増え始める頃、子供の水難防止を祈願する「ひゃーらんさんまつり」が各地で行われている。地域の伝統的行事として継承されると共に希薄になりがちな地域コミュニティの醸成にも繋がる取組みともなっている。



ひゃーらんさんまつり

● さがクリークネットによる活動

佐賀平野に網の目（ネット）のように張り巡らされた複合的水路「クリーク」を観光やまちづくりの場として利活用し未来へつなげるため、市街地の水路での和船乗船体験やカヤックによるクリーク散策、クリーク周辺でのマルシェ、佐賀城下ひなまつり期間中の松原川ライトアップなど、クリークを活かした新たな取組が市民団体「さがクリークネット」により平成28年度から実施されている。



クリーク散策

③ 自己評価

地域、市民活動団体、学生などの努力により、近年では見られることが少なくなった「ごみくい」活動や、市内を走るクリークを活かした新たな取組が見られるようになり、市民等の中に本市の特徴である堀やクリークの文化を維持・継承する意識の高まりが見られるようになった。

④ 今後の対応

今後も地域や市民活動団体などが事業を継続していけるよう、資金面、人材面、情報発信などの面で活動支援を行っていく。

最終評価（歴史的風致別シート）

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～R3年
歴史的風致	6 祭事の継承から見える歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ 伝統と歴史に対する市民啓発と個々の活動への支援		

① 歴史的風致の概要

佐賀平野は広大な米どころであり古くから米作りが営まれてきたが、日照りや台風といった人知では防ぐことのできない自然に大きく左右されるものであるため、現在へ受け継がれている祭事は水不足を解消するための雨乞いや五穀豊穡などを祈願するものが多い。代表的なものとして「市川の天衝舞浮立」、「白鬚神社の田楽」、「三重の獅子舞」や小正月行事の「見島のカセドリ」などがあり、各地域で今日まで受け継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

● ユネスコ無形文化遺産登録（見島のカセドリ）

見島のカセドリは、藁藁をまとった「カセドリ」とよばれる青年が、地区の家々を訪れ青竹で畳や床を激しく打ち鳴らして、悪霊を払い、その年の家内安全や五穀豊穡を祈願する小正月の行事である。その活動が評価され、平成30年11月29日に「来訪神：仮面・仮装の神々」のひとつとして、ユネスコの無形文化遺産に登録された。

市では保存会の運営に関する経費への補助を行い保存継承を支援した。



見島のカセドリ

● 佐賀市無形民俗文化財継承支援補助金

市内には、「浮立」「田楽」「獅子舞」など、地域で受け継がれてきた12の無形民俗文化財があるが、過疎化や若年層の減少などにより、次世代の担い手不足が懸念されている。このため保存団体などの担い手育成や普及啓発、情報交換など、保存団体の運営に関する経費の補助等を行うことにより、無形民俗文化財の継承を図っている。



市川の天衝舞浮立

③ 自己評価

見島のカセドリは、保存団体によるこれまでの地道な活動と、市無形民俗文化財継承支援補助の実施などが実を結び、ユネスコの無形文化遺産登録という偉業を成し遂げることができた。

伝統祭事の継承については、次世代の担い手不足が引き続き課題である。さらに、近年は祭事で使う道具等の調達職人の減少等により難しくなっていることも課題となっている。



白鬚神社の田楽

④ 今後の対応

地域の伝統催事の継承については、担い手の育成が引き続き課題であるため、第2期計画においても保存団体などの取り組みに対する活動支援を継続し、無形民俗文化財の継承を図っていく。また、祭事で使用する道具については、保存団体とも協力しながら情報収集等に努めていく。

最終評価（庁内体制シート）

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～R3年
<p>① 庁内組織の体制・変化</p> <p>歴史的風致維持向上計画の推進にあたっては、法第11条に基づく「佐賀市歴史まちづくり協議会」を中心に、重点区域を対象とした各種事業や取り組みを庁内の関係課で調整する「佐賀市歴史まちづくり事業調整会議」を平成24年度から設置し、円滑な事業推進を行えるよう庁内調整を図っている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="276 472 788 1077" style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">【法定協議会】</p> <p style="text-align: center;">佐賀市歴史まちづくり協議会（委員10名） （事務局）歴史・世界遺産課</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  <p>連携</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">佐賀市歴史まちづくり事業調整会議</p> <p>（会長）企画調整部長 （組織）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史・世界遺産課（庶務） ・ 文化振興課 ・ 都市政策課 ・ 道路整備課 ・ 道路管理課 ・ 河川砂防課 ・ 建築指導課 ・ 緑化推進課 ・ 商業振興課 ・ 観光振興課 ・ 財政課 </div> </div> <div style="width: 45%;">  <p style="text-align: center;">佐賀市歴史まちづくり協議会 （現地視察）</p>  <p style="text-align: center;">歴史まちづくり事業調整会議</p> </div> </div>			
<p>② 庁内の意見・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「石橋再生事業」では、石橋を一度解体し組み立て直す作業工程において、改めて市民から石橋の昔の姿に興味を持たれるといった副次的な効果がみられた。保存補修工事により劇的な変化があるわけではないが、少しでも長く現状維持し後世に残したい。 ●「佐賀市歴史民俗館保存修理事業」では、改修工事を行ったことにより、施設利用者の利便性の向上が図られた。また、「大隈記念館改修事業」では、施設設備・展示内容が充実したことにより入館者数の増加がみられた。 ●「構口公園整備事業」では公園整備により、ボランティア団体等が公園周辺の地域環境緑化活動を新たに始めるなど、市が行う整備事業と民間活動が一体となって、歴史的風致の維持向上につながっている。 ●「長崎街道再整備事業」では、舗装の高質化により他の生活道路との差別化が図られ、長崎街道の道案内となっている。また、遮熱性舗装を採用したことにより、道路からの反射熱が抑えられ、来訪者の快適な長崎街道散策に寄与している。 ●「案内・説明看板及び誘導看板整備事業」では、市と市民団体の協働により、点在する歴史的資源の案内・説明看板を各所に設置し、市民や来訪者の歴史散策の一助となっている。一方で、整備した看板等の今後の維持管理や、本事業実施前に設置されていた看板等の老朽化、デザインの不統一といった課題に、引き続き取り組んでいく必要がある。 ●歴史的風致維持向上計画の事業実施にあたり、複数の部署が歴史まちづくりという観点で情報を共有し、取組を推進することができた。今後も庁内で十分な連携を図っていく必要があり、特に、歴史的風致の維持向上という事業の意義を、関係各課が十分に理解しておくことが重要である。 			

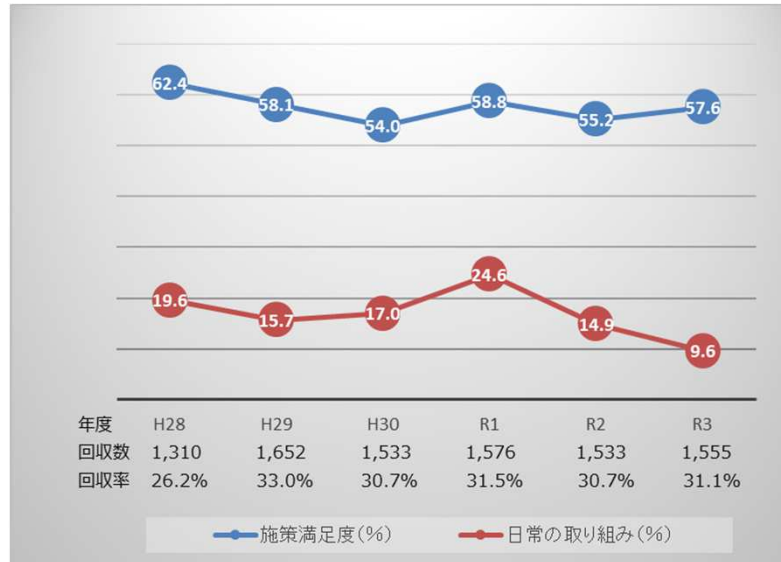
最終評価（住民評価・協議会意見シート）

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～R3年
------	-----	--------	---------

① 住民意見

■佐賀市民意向調査（毎年度実施）

- 佐賀市総合計画における施策「未来につなげる文化の振興」に対する現状の満足度
- 過去1年間の間に、歴史関連のイベント等に参加したり、活動したりした者の割合



- 最終評価シートに関するパブリックコメント（令和3年12月15日～令和4年1月13日）
提出意見なし

② 協議会におけるコメント

- 事業当初の目的であったアスファルトに覆われた石橋の再生については、桁橋の経年劣化等を検証することが非常に困難であり、通行の安全性を担保できない状況であった。大学教授等の専門家にも相談したが、十分な成果が得られたとは言い難い。（石橋再生事業）
- 長崎街道の再整備により一定の効果は得られたが、周辺の町家の減少は著しいものがある。市民や来訪者に昔の趣を感じてもらえるようにするには、道路整備だけでなく両側の町家を残すといった点にも力を入れていく必要があるのではないか。
- 伊勢町、六座町、点屋町などは昔の町並みはほとんどない。解体されて、そのあとはみんな駐車場になっており寂しい限り。何とかして旧長崎街道を残すように努力しないとイケない。
- 建物を残すというのは、いろんな制度を設けて実際に残っていけばいいが、そこで生活する人がいてなかなか難しいところもある。そこで、水路や石橋などを残して行って、建物や昔の風景などは今の技術、VRやARといったバーチャルの世界で見られるように、今の風景と昔の風景とを照らし合わせて見られるような、そういう楽しみ方もあるのではないか。
- 案内サイン等の整備は上手いっていると思っている。通り名が入ったりいろんなことをしたこと、佐賀は非常に豊かになったと思う。そういう点では高く評価している。
- こういう地道なところで点をずっと結んでいくような作業というのはあまり目立たないが、ぜひ続けていってほしい。2期計画を策定し継続してやれることが非常に重要だなという気がする。問題はいっぱいありつつも、やりたいことをコツコツとやっていただければいい。

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～R3年
<p>① 全体の課題</p> <p>■ 歴史的建造物の保存・活用及びその周辺環境に関する課題 歴史的な建造物が多く建ち並ぶ柳町周辺以外にも、市内には武家屋敷、町家、寺社などの歴史的建造物が点在しているが、経年劣化等に伴う保存修理が必要なものも数多く見受けられる。こうした建物の中には、使用されることなく除却されたり、十分な維持管理がなされず老朽化・損傷が著しいものも多くなっている。</p> <p>■ 歴史資産等の周遊環境に関する課題 市内には、国をはじめ県、市の指定文化財、史跡、登録文化財や、歴史的価値を有する文化財未指定の建造物が点在している。また、本市の文化や歴史資産を伝える施設も数多くある。しかしながら、こうした建造物や施設等を、市民・来訪者がわかりやすく、快適に周遊するための環境整備は十分とはいえない状況である。</p> <p>■ 地域固有の歴史文化の継承と市民の歴史文化への理解に関する課題 高齢化や人口減少などにより、地域に伝わる祭礼行事や歴史資産などの維持が困難となっているケースが見受けられる。また、無形の伝統文化や伝統技術は、後継者不足の問題に直面している。 さらには、世界遺産登録や明治維新150年事業などにより、近年、歴史文化に対する市民意識の高まりがみられるが、これらを一過性のもものとししない取組が必要である。</p>			
<p>② 今後の対応</p> <p>■ 歴史的建造物の保存修理、統一感のあるまちなみの形成、歴史的建造物を活かした交流・にぎわいづくりなど、歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進に努めていく。</p> <p>■ 点在する歴史資産をわかりやすく快適に周遊するための環境整備、統一したデザインによる歴史資産等の案内・説明看板などの設置などにより、歴史資産等の周遊環境の整備促進を図る。</p> <p>■ 伝統文化の継承活動への支援、文化財についての市民への啓発、幕末佐賀藩近代化産業遺産等の調査、市民・来訪者の理解増進のための啓発などにより、地域固有の歴史文化の継承と市民の理解促進に取り組む。</p>			